

平成29年10月18日(水)

地域密着型サービスに係る
介護・医療連携推進会議

ナイトウメディックス株式会社
あさひサポートセンター

定期巡回・随時対応型訪問介護看護 利用者の状況①

登録者の要介護度

	H29.07	H29.08	H29.09
要介護1	11	12	12
要介護2	15	10	9
要介護3	2	3	3
要介護4	6	3	7
要介護5	1	1	1
その他			

登録者の推移 (平成29年9月30日現在)

	H29.07	H29.08	H29.09	集計
登録	34	33	32	99
中止	5	3	2	10

中止の理由

中止理由	人数
他サービスへの移行	1
永眠	2
その他(入院・入所・中止)	7

利用者の状況②

登録のタイミング

(平成29年07月～09月)

状況	人数
サービス利用なし	1
県指定からの移行	1
病院からの退院	1

居宅ケアマネの推移

	H28.7	H28.8	H28.9
自社	13	11	12
他事業所	21	21	20

家庭の状況

(平成29年09月末現在)

状況	人数
独居	14
高齢夫婦	11
家族同居(日中独居)	3
家族同居(家族協力有)	4

サービスの提供状況③

1時間ごとの定期巡回の介入数

時間帯	0時～7時		8時～		9時～		10時～		11時～		12時～		13時～		14時～	
回数	4	3	8	16	8	12	6	6	5	8	8	6	5	3	3	3
時間帯	15時～		16時～		17時～		18時～		19時～		20時～		21時～		22時～	
回数	5	6	9	8	7	11	10	5	2	2	3	6	3	2	1	1

※ 赤字が今回実績

サービスの提供状況③

コール・緊急通報の状況・実績

月	回数	状況
7月	29回	03:30 深夜にベッドからのずれ落ち(家族様より) 07:30 家族様用の緊急ペンダントの押し間違い 家族様より「大丈夫です」と連絡あり 「熱が出てきた。」「便が出た」等
8月	52回	「暑い」、「痒い」、「熱が出てきた」、「しんどい」と、身体的な訴え 「身の回りに置いてたのがなくなった」 「何でもないが、来てほしい」と心理的な要望
9月	94回	体調不良 便が出てしまい、パニックになり訪問までの数回のコール 「頭が痛いから、薬を持って来てほしい」

電話コールの内容

- ・「淋しい」「雷がなりそうや」「早く、来てー」と、日に3度は必ずある。
- ・貼ってある所の薬がないと、困惑されての訴え。
- ・「食べるものがないから、」「フラフラして買い物にいけない」と、買い物の依頼。(介入前や買い物の日に)

緊急搬送： 1件

事例検討 K様 (平成28年1月04日介入開始)

①利用者の状況

項目	状況等
性別	女性
年齢	84歳
要介護度	要介護 2
日常生活自立度・認知度	J2 ・ 3A
世帯・家族(家族環境)	独居・長女のみ 神戸在住 / 2階建ての住居、1階での生活 お金の管理、受診の付き添いは娘様対応。仕事をしているためすぐには来れないが協力的
既往歴	不詳:高血圧・高脂血症 不詳:緑内障 H21年 腰椎狭窄症による腰椎固定術を受ける H25年 認知症(アルツハイマー型と診断)
内服薬	(朝) Crestor錠[2.5] Candesartan錠[4] Amlodipine錠[5] Magmit錠[330] Memory錠[15] (朝・夕) Wipacks錠[1] Risperidone錠[1] Dogmatil錠[100] 抑肝散
訪問看護サービスの有無	西脇社会福祉協議会訪問看護ステーション

②利用に至る経緯

- 訪問介護サービスからの移行。(5回/週・生活2 デイ2日/週)
- 市販薬を飲む回数、不安やパニックになり家族や近隣への訴えが頻回あり
困惑な状態が増えてきた
- 定期的・随時の訪問を受けることで、自分では判断せずに相談できる環境が
必要

⑩今後の課題として

- 薬の管理の問題
- 薬に関する重要性、専門職としての認識
- 不安の軽減に努める声かけや、電話での不安解消となる対応

③K様の状態(介入直後)

項目	状況	備考
全般的な状態	安定	ADLの低下は見られない。不安やパニックが起きると精神的に不安定な様子見られる
食事・水分	自立	調理はできるが、同じ献立ばかり。惣菜やお弁当は買い物してこられる。
排泄	自立	自立(尿、便汚染の確認はなし)
入浴	自立	週2回のデイサービス利用時に実施
皮膚状態	良	発赤、表皮剥離、浮腫見受けられない
口腔清潔	自立	きちんと行われている様子
移動・移乗	自立	下肢低下は見受けられない。問題ない。自転車で行動できる
認知症	Ⅱb	記憶や認識が曖昧な時がある。物忘れの自覚あり
意思疎通	良	可能。理解力、記憶力に変動あり

④介入時の課題、目標

【課題】

- 定期薬の内服の管理が出来ているか。
- 薬に対する依存傾向が見られる。市販薬の過剰な服用がある。
- 不安やパニックが起こると不安定な状態。

【目標】

- 確実に服薬できている。
- 体調の確認を行い、市販薬の乱用がないよう助言、見守り。
- 可能な範囲で生活状況を確認し、必要に応じた声かけ、援助を行う。

⑤介護計画 1-1

ご本人様 ご家族の希望		本人様: 楽しく過ごせている。今の生活を続けたい。 家族様: 一人暮らしで何かと心配している。通所介護には楽しく行けており続けてほしい。処方薬以外を飲むので心配している。
長期目標		市販薬を飲むことなく、心配に思うことが減り、楽しい生活が続き、家で過ごす事ができている。
医療から のアドバ イス	身体面	服薬に対する依存心が強く、残薬少なくなると不安がある。重複が見られるので注意が必要。 きはら心療内科クリニックの薬、1種類内服の量が増量になっている。眠気が増す状態が出現する可能性あり。
	生活面	残薬少なくなると不安で、電話が増えたりするので自尊心を傷つけないよう対応。 冷蔵庫に日めくりカレンダーを設置、日にちの確認の習慣が身に付き、重複内服が避けられるか様子を見る。 熱中症や脱水、食中毒に注意が必要。暑い時間帯に訪問して環境調整と水分補給の促しをお願いします。

⑥介護計画 1-2

生活上のニーズ	短期目標	具体的な援助内容・方法	所要時間	頻度
家でこのまま過ごしたい	入院することなく生活ができている	体調確認、服薬確認、水分補給	5分	2回/日
市販薬をすぐに飲んでしまうことが心配	市販薬を飲む前に相談ができる	市販薬の購入・服薬状況の確認	5分	2回/日
楽しく過ごせている生活を続けたい	楽しい時間を過ごせる	会話を楽しむ、環境づくり 地域行事の確認など、水分補給	5分	必要時
一人暮らしで心配	定期的・随時の訪問を受けることで心配が減る	体調・安否確認、水分補給 食生活の確認、買い物の声かけ、 金銭管理の確認	15分	3回/日
体調不良時や不穏時の対応、確認が必要	相談、訪問する事で安心できる	不在時の安否確認 天候不良時や災害時の安否確認	5分	必要時

⑦実践の内容

項目	内容
服薬確認	服薬確認、重複の確認。 市販薬の購入状況や残薬数の確認、乱用がないかの確認 風邪症状がある時は病院処方漢方薬を服用
食事確保の確認	買い物された惣菜の賞味期限の確認、夕食の確保がない時の買い物の声かけ
金銭管理の確認	生活費の残高を確認
その他	・介入時の体調確認 ・地域の活動、デイ、ゴミ出し日の声かけ ・寒い時期のストーブ・カイロ使用による、低温やけどがないかの確認

⑧サービス提供後の様子

項目	内容
健康状態	体調安定、混乱もなく見守りがあることに安心される 腰背部の痛みはあり
服薬状況	定期薬はきちんと服用出来ている。時々、重複があったが、体調には問題なし。 市販の風邪薬の服用は減少したが、便秘薬・胃薬・頭痛薬の購入、時々服用。
食事・水分補給	体重の変化もなく、食欲あり。 いつも同じ食材での、炒めものは調理できている。時には飲酒されることあり。 水分補給についても、問題なし。
その他	地域の食事会に出席されたりと交流あり。 デイも休まれることなく、前日には用意もできている。当日の朝も、きちんと支度できている。

⑨状態の変化とサービスの見直し

項目	内容
健康状態	平成28年の10月下旬より、胃部不快・嘔吐・心窩部の痛みが出現。1日数回の電話で緊急コールあり 随時訪問。 食事量が減り体重減少があり、3回/日の訪問、食事の確保・簡単な調理、買い物を行う。 精神面の影響も考えられるため、不安の軽減に努める声かけ、見守り。 忘れることが増えてきたと自覚あり不安の訴えある。
服薬状況	胃部不快が出現した頃より、市販薬の購入・服用は全く見られない。 定期薬(朝のみ)に精神薬(朝夕)が増え、薬シートの貼り付けで対応→精神薬の重複があり、ヘルパーファイルで管理。 定期薬の重複内服があれば、看護師に報告、相談し指示にて対応
生活状況	全般に声かけ、見守りが必要になる。
その他	朝の起床が遅くなる。デイの日は支度が間に合わなくなる。→起床の確認の電話を入れる。

⑩今後の課題として

- 薬の管理の問題
- 薬に関する重要性、専門職としての認識
- 不安の軽減に努める声かけや、電話での不安解消となる対応